



新型コロナ禍の行先

2019年12月中国から原因不明の肺炎で始まった新型コロナ禍も2020年1月以降全世界に広がり約2年半が過ぎました。この間に発症率や重症化率を下げるワクチンが開発され全国で多くの人々に複数回にわたり接種されてきましたが、まだ感染者がなくなるには至らず、7月からさらに感染拡大している状況です。ただ、当初のような重症化は減少し、死亡率も0.3%を切った現在、我が国で感染者の最も多い東京においても東京都医師会会長が現在の2類相当から脱却し5類相当への見直しを求める案も提示されていました。

そこにはまだ色々な問題があると思われませんが、治療薬も開発され、次の段階を迎えようとしていることは間違いないと思われれます。

約100年前に世界で大流行したスペイン風邪は当時全人口の1/4にあたる5億人が感染し、1700万人～5000万人が死亡した恐ろしい感染症でしたが、この感染症は絶滅せず、インフルエンザ(流行性感冒)として現在も季節性に流行しているのが現状です。

スペイン風邪が落ち着いた当時と同じおよそ3年が過ぎる今年末～来年にかけて、新型コロナ禍も落ち着くことを祈っています。

当院外科スタッフが派遣されてきた大阪市立大学も今年春から大阪府立大学と合併し、大阪公立大学と名前が変わりました。その少し前から外科はナンバー外科と呼ばれる第1、第2から臓器別外科に変わり、当科の医員も合同で構成されるようになりました。

新たな経験も加わり引き続き技術向上を目指して努力して参りますので、地域のみなさま、地域連携の先生方、これからもどうぞよろしくお願い申し上げます。

2022年7月
外科部長 久保田太輔